

## 令和3年度予算編成にあたって

富田林市長 吉村 善美

令和2年は、私たちにとって忘れられない試練の年となりました。新型コロナウイルス感染症（以下、「感染症」と言う。）の蔓延により、本市においても予定されていた市制施行70周年事業を始めとする様々な取組みが中止や縮小を余儀なくされ、また働き方や生活様式に非常に大きな変化が起きるなど、市民生活や地域経済も大きな影響を受けています。

しかしながら、下水道は市民生活を守る大切なライフラインであり、私たちは事業を継続していかねばなりません。むしろ、困難な、厳しい状況にあるからこそ、私たちは一丸となって、これまで通りに責任を果たしていかなければならないものと考えます。

本市下水道事業は地方公営企業法全部適用から4年がすでに経過し、過去のデータや、公営企業会計の経験も蓄積されてきました。予算編成にあたっては、決算の傾向にも留意し、精査して行うようにしてください。また、令和元年度には「富田林市下水道事業経営戦略」を策定しました。経営戦略は、事業と財源のバランスに視点を置いたもので、予算編成を考えるときに基本となる柱です。予算はこれをふまえたものとし、一般会計に依存しない経営を目指し、一層の精査と、効率化を目指してください。

感染症の終息が見通せない中、ウイズコロナ・ポストコロナを見据えた取組みとあわせ、引き続きこれまで通りの事業継続が必要となります。限られた財源をフルに活用し、下水道事業職員一人ひとりが真剣に考え、「他思力」「他喜力」を存分に発揮して予算編成に臨んでください。

令和元年度末には、本市の下水道普及率は92.7%となり、公共下水道事業は、面整備の概成とあわせ、市民の安心・安全を確保するための老朽化対策として、下水道施設の長寿命化も急務となっています。引き続き、浄化槽事業を活用しつつ、「生活排水処理100%」の早期実現に努めたいと考えています。

#### (財政状況と見通し)

令和2年7月時点での使用料調定額の対前年度比は100.6%と、わずかに増加傾向にありますが、感染症の事業収入への影響は先行きがいまだ読めず、予断のできない状況は変わっていません。もとより、人口減少や節水機器の普及により使用料収益は減少傾向にあり、新規接続による収益の増加もわずかなものです。また、その他の収益の増加も見込めない状況にあります。

費用面では、営業費用の中で大きな支出となる、流域下水道維持管理費負担金の決算額が、令和元年度において対前年度比104.5%と、近年の増加傾向がさらに顕著になっており、今後も負担が増加する見込みとなっています。

このように、収益、費用の両面から収支の悪化傾向が継続しており、厳しい状況下にあります。そのうえで、新規整備、既存施設の適正な維持管理に努めなければなりません。また、令和3年度は、感染症の影響を確実に見通すことが困難な状況での予算編成となります。財源減少の可能性も考慮した、柔軟な予算編成が必要です。余剰資金を持たない本市下水道事業にとっては、特に重要です。

「市民とともにつくる、市民が幸せになる、市民本位の市政」を、下水道事業においても基本精神として進めていくことを肝に銘じ、取り組んでいきたいと思います。

### (予算の基本方針)

下水道事業では、令和3年度の予算編成にあたって中心とする6つの柱の一つである、「市民の安心・安全・いのちを守るまちづくりの推進」を中心とした予算編成を行うものとします。これに、SDGsの視点も加え、部局間の連携も図りながら、全体的な視点で予算編成にあたるようにしてください。

収益的支出の予算編成は、収益的収入に見合ったものとし、そのためには財源を意識し、計上額を過大に見積もることのないようにすること。財源の確保については、国庫支出金、公営企業債、分担金などを最大限活用し、一般会計からの繰入金については最小限とすること。

編成は計画に基づいたものとし、そこに重要度、優先度を加味して計画性と効率に十分配慮したものとしてください。

以上、令和3年度予算編成の基本方針とします。